

Q0001

タックスプランニング

タグ：所得税

用語：所得税の確認ポイント1：個人の一年間の所得に対して課される国税

次の説明に最も合う用語はどれか。個人の一年間の所得に対して課される国税

- A. 所得税
- B. 総合課税
- C. 所得控除
- D. 給与所得

答え・解説

Q0001 正答：A. 所得税

解説：所得税は、個人の一年間の所得に対して課される国税。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0002

タックスプランニング

タグ：所得税

用語：所得税の確認ポイント2：個人の一年間の所得に対して課される国税

所得税の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式
- B. 個人の一年間の所得に対して課される国税
- C. 課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除
- D. 勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得

答え・解説

Q0002 正答：B. 個人の一年間の所得に対して課される国税

解説：所得税の要点は「個人の一年間の所得に対して課される国税」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0003

タックスプランニング

タグ：所得税

用語：所得税の確認ポイント3：個人の一年間の所得に対して課される国税

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「所得税」である。

- A. 総合課税：個人の一年間の所得に対して課される国税
- B. 所得控除：個人の一年間の所得に対して課される国税
- C. 所得税：個人の一年間の所得に対して課される国税
- D. 給与所得：個人の一年間の所得に対して課される国税

答え・解説

Q0003 正答：C. 所得税：個人の一年間の所得に対して課される国税

解説：正しい組合せは「所得税：個人の一年間の所得に対して課される国税」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0004

タックスプランニング

タグ：所得税

用語：所得税の確認ポイント4：個人の一年間の所得に対して課される国税

「所得税」は、個人の一年間の所得に対して課される国税。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0004 正答：○

解説：正しい。所得税は個人の一年間の所得に対して課される国税。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0005

タックスプランニング

タグ：所得税

用語：所得税の確認ポイント5：個人の一年間の所得に対して課される国税

組織が「個人の一年間の所得に対して課される国税」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 所得税
- B. 総合課税
- C. 所得控除
- D. 給与所得

答え・解説

Q0005 正答：A. 所得税

解説：この目的に対応するのは所得税である。個人の一年間の所得に対して課される国税という機能・考え方を持つためである。

Q0006

タックスプランニング

タグ：所得税

用語：所得税の確認ポイント6：個人の一年間の所得に対して課される国税

「所得税」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得
- B. 個人の一年間の所得に対して課される国税
- C. 課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除
- D. 対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

答え・解説

Q0006 正答：B. 個人の一年間の所得に対して課される国税

解説：所得税は個人の一年間の所得に対して課される国税。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0007

タックスプランニング

タグ：所得税

用語：所得税の確認ポイント7：個人の一年間の所得に対して課される国税

「所得税」は、対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0007 正答：×

解説：誤り。記述は総合課税の説明である。所得税は個人の一年間の所得に対して課される国税。

Q0008

タックスプランニング

タグ：所得税

用語：所得税の確認ポイント8：個人の一年間の所得に対して課される国税

次の状況で中心となる論点はどれか。「個人の一年間の所得に対して課される国税」ことが求められている。

A. 所得控除

B. 給与所得

C. 総合課税

D. 所得税

答え・解説

Q0008 正答：D. 所得税

解説：中心となる論点は所得税である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0009

タックスプランニング

タグ：所得税

用語：所得税の確認ポイント9：個人の一年間の所得に対して課される国税

所得税を選定するときは、「個人の一年間の所得に対して課される国税」という本来の目的に合うかを確認する。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0009 正答：○

解説：正しい。所得税の選定・運用では、個人の一年間の所得に対して課される国税という目的との適合を確認する。

Q0010

タックスプランニング

タグ：所得税

用語：所得税の確認ポイント10：個人の一年間の所得に対して課される国税

所得税は、個人の一年間の所得に対して課される国税という説明とは無関係である。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0010 正答：×

解説：誤り。所得税はまさに個人の一年間の所得に対して課される国税という意味を持つ。

Q0011

タックスプランニング

タグ：総合課税

用語：総合課税の確認ポイント1：対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

次の説明に最も合う用語はどれか。対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

- A. 申告分離課税
- B. 総合課税
- C. 税額控除
- D. 事業所得

答え・解説

Q0011 正答：B. 総合課税

解説：総合課税は、対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0012

タックスプランニング

タグ：総合課税

用語：総合課税の確認ポイント2：対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

総合課税の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式
- B. 算出した税額から直接差し引く控除
- C. 対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式
- D. 継続的な事業から生じる所得

答え・解説

Q0012 正答：C. 対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

解説：総合課税の要点は「対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0013

タックスプランニング

タグ：総合課税

用語：総合課税の確認ポイント3：対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「総合課税」である。

- A. 申告分離課税：対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式
- B. 税額控除：対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式
- C. 事業所得：対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式
- D. 総合課税：対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

答え・解説

Q0013 正答：D. 総合課税：対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

解説：正しい組合せは「総合課税：対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0014

タックスプランニング

タグ：総合課税

用語：総合課税の確認ポイント4：対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

「総合課税」は、対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0014 正答：○

解説：正しい。総合課税は対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0015

タックスプランニング

タグ：総合課税

用語：総合課税の確認ポイント5：対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

組織が「対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 申告分離課税
- B. 総合課税
- C. 税額控除
- D. 事業所得

答え・解説

Q0015 正答：B. 総合課税

解説：この目的に対応するのは総合課税である。対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式という機能・考え方を持つためである。

Q0016

タックスプランニング

タグ：総合課税

用語：総合課税の確認ポイント6：対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

「総合課税」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 継続的な事業から生じる所得
- B. 算出した税額から直接差し引く控除
- C. 対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式
- D. 他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

答え・解説

Q0016 正答：C. 対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

解説：総合課税は対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0017

タックスプランニング

タグ：総合課税

用語：総合課税の確認ポイント7：対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

「総合課税」は、他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0017 正答：×

解説：誤り。記述は申告分離課税の説明である。総合課税は対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式。

Q0018

タックスプランニング

タグ：総合課税

用語：総合課税の確認ポイント8：対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

次の状況で中心となる論点はどれか。「対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式」ことが求められている。

A. 総合課税

B. 税額控除

C. 事業所得

D. 申告分離課税

答え・解説

Q0018 正答：A. 総合課税

解説：中心となる論点は総合課税である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0019

タックスプランニング

タグ：総合課税

用語：総合課税の確認ポイント9：対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

総合課税は名称だけで判断できるため、対象や目的を確認する必要はない。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0019 正答：×

解説：誤り。総合課税は対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式という概念であり、対象・目的・前提条件の確認が必要である。

Q0020

タックスプランニング

タグ：総合課税

用語：総合課税の確認ポイント10：対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

総合課税と他の類似概念を区別する際は、「対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式」という定義を基準にするとよい。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0020 正答：○

解説：正しい。総合課税の定義は対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式であり、類似概念との区別に使える。

Q0021

タックスプランニング

タグ：申告分離課税

用語：申告分離課税の確認ポイント1：他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

次の説明に最も合う用語はどれか。他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

- A. 所得控除
- B. 源泉徴収
- C. 申告分離課税
- D. 不動産所得

答え・解説

Q0021 正答：C. 申告分離課税

解説：申告分離課税は、他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0022

タックスプランニング

タグ：申告分離課税

用語：申告分離課税の確認ポイント2：他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

申告分離課税の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除
- B. 支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み
- C. 土地や建物などの貸付けから生じる所得
- D. 他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

答え・解説

Q0022 正答：D. 他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

解説：申告分離課税の要点は「他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0023

タックスプランニング

タグ：申告分離課税

用語：申告分離課税の確認ポイント3：他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「申告分離課税」である。

- A. 申告分離課税：他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式
- B. 所得控除：他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式
- C. 源泉徴収：他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式
- D. 不動産所得：他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

答え・解説

Q0023 正答：A. 申告分離課税：他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

解説：正しい組合せは「申告分離課税：他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0024

タックスプランニング

タグ：申告分離課税

用語：申告分離課税の確認ポイント4：他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

「申告分離課税」は、他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0024 正答：○

解説：正しい。申告分離課税は他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0025

タックスプランニング

タグ：申告分離課税

用語：申告分離課税の確認ポイント5：他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

組織が「他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 所得控除
- B. 源泉徴収
- C. 申告分離課税
- D. 不動産所得

答え・解説

Q0025 正答：C. 申告分離課税

解説：この目的に対応するのは申告分離課税である。他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式という機能・考え方を持つためである。

Q0026

タックスプランニング

タグ：申告分離課税

用語：申告分離課税の確認ポイント6：他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

「申告分離課税」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 土地や建物などの貸付けから生じる所得
- B. 支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み
- C. 課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除
- D. 他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

答え・解説

Q0026 正答：D. 他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

解説：申告分離課税は他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0027

タックスプランニング

タグ：申告分離課税

用語：申告分離課税の確認ポイント7：他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

「申告分離課税」は、課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0027 正答：×

解説：誤り。記述は所得控除の説明である。申告分離課税は他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式。

Q0028

タックスプランニング

タグ：申告分離課税

用語：申告分離課税の確認ポイント8：他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

次の状況で中心となる論点はどれか。「他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式」ことが求められている。

A. 源泉徴収

B. 申告分離課税

C. 不動産所得

D. 所得控除

答え・解説

Q0028 正答：B. 申告分離課税

解説：中心となる論点は申告分離課税である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0029

タックスプランニング

タグ：申告分離課税

用語：申告分離課税の確認ポイント9：他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

申告分離課税を選定するときは、「他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式」という本来の目的に合うかを確認する。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0029 正答：○

解説：正しい。申告分離課税の選定・運用では、他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式という目的との適合を確認する。

Q0030

タックスプランニング

タグ：申告分離課税

用語：申告分離課税の確認ポイント10：他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式

申告分離課税は、他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式という説明とは無関係である。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0030 正答：×

解説：誤り。申告分離課税はまさに他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式という意味を持つ。

Q0031

タックスプランニング

タグ：所得控除

用語：所得控除の確認ポイント1：課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除

次の説明に最も合う用語はどれか。課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除

- A. 税額控除
- B. 確定申告
- C. 一時所得
- D. 所得控除

答え・解説

Q0031 正答：D. 所得控除

解説：所得控除は、課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0032

タックスプランニング

タグ：所得控除

用語：所得控除の確認ポイント2：課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除

所得控除の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除
- B. 算出した税額から直接差し引く控除
- C. 納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続
- D. 営利目的の継続行為によらない一時的な所得

答え・解説

Q0032 正答：A. 課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除

解説：所得控除の要点は「課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0033

タックスプランニング

タグ：所得控除

用語：所得控除の確認ポイント3：課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「所得控除」である。

- A. 税額控除：課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除
- B. 所得控除：課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除
- C. 確定申告：課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除
- D. 一時所得：課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除

答え・解説

Q0033 正答：B. 所得控除：課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除

解説：正しい組合せは「所得控除：課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0034

タックスプランニング

タグ：所得控除

用語：所得控除の確認ポイント4：課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除

「所得控除」は、課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0034 正答：○

解説：正しい。所得控除は課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0035

タックスプランニング

タグ：所得控除

用語：所得控除の確認ポイント5：課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除

組織が「課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 税額控除
- B. 確定申告
- C. 一時所得
- D. 所得控除

答え・解説

Q0035 正答：D. 所得控除

解説：この目的に対応するのは所得控除である。課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除という機能・考え方を持つためである。

Q0036

タックスプランニング

タグ：所得控除

用語：所得控除の確認ポイント6：課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除

「所得控除」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除
- B. 営利目的の継続行為によらない一時的な所得
- C. 納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続
- D. 算出した税額から直接差し引く控除

答え・解説

Q0036 正答：A. 課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除

解説：所得控除は課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0037

タックスプランニング

タグ：所得控除

用語：所得控除の確認ポイント7：課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除

「所得控除」は、算出した税額から直接差し引く控除。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0037 正答：×

解説：誤り。記述は税額控除の説明である。所得控除は課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除。

Q0038

タックスプランニング

タグ：所得控除

用語：所得控除の確認ポイント8：課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除

次の状況で中心となる論点はどれか。「課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除」ことが求められている。

A. 確定申告

B. 一時所得

C. 所得控除

D. 税額控除

答え・解説

Q0038 正答：C. 所得控除

解説：中心となる論点は所得控除である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0039

タックスプランニング

タグ：所得控除

用語：所得控除の確認ポイント9：課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除

所得控除は名称だけで判断できるため、対象や目的を確認する必要はない。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0039 正答：×

解説：誤り。所得控除は課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除という概念であり、対象・目的・前提条件の確認が必要である。

Q0040

タックスプランニング

タグ：所得控除

用語：所得控除の確認ポイント10：課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除

所得控除と他の類似概念を区別する際は、「課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除」という定義を基準にするとよい。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0040 正答：○

解説：正しい。所得控除の定義は課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除であり、類似概念との区別に使える。

Q0041

タックスプランニング

タグ：税額控除

用語：税額控除の確認ポイント1：算出した税額から直接差し引く控除

次の説明に最も合う用語はどれか。算出した税額から直接差し引く控除

- A. 税額控除
- B. 源泉徴収
- C. 給与所得
- D. 雑所得

答え・解説

Q0041 正答：A. 税額控除

解説：税額控除は、算出した税額から直接差し引く控除。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0042

タックスプランニング

タグ：税額控除

用語：税額控除の確認ポイント2：算出した税額から直接差し引く控除

税額控除の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み
- B. 算出した税額から直接差し引く控除
- C. 勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得
- D. 他の所得区分に当てはまらない所得

答え・解説

Q0042 正答：B. 算出した税額から直接差し引く控除

解説：税額控除の要点は「算出した税額から直接差し引く控除」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0043

タックスプランニング

タグ：税額控除

用語：税額控除の確認ポイント3：算出した税額から直接差し引く控除

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「税額控除」である。

- A. 源泉徴収：算出した税額から直接差し引く控除
- B. 給与所得：算出した税額から直接差し引く控除
- C. 税額控除：算出した税額から直接差し引く控除
- D. 雑所得：算出した税額から直接差し引く控除

答え・解説

Q0043 正答：C. 税額控除：算出した税額から直接差し引く控除

解説：正しい組合せは「税額控除：算出した税額から直接差し引く控除」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0044

タックスプランニング

タグ：税額控除

用語：税額控除の確認ポイント4：算出した税額から直接差し引く控除

「税額控除」は、算出した税額から直接差し引く控除。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0044 正答：○

解説：正しい。税額控除は算出した税額から直接差し引く控除。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0045

タックスプランニング

タグ：税額控除

用語：税額控除の確認ポイント5：算出した税額から直接差し引く控除

組織が「算出した税額から直接差し引く控除」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 税額控除
- B. 源泉徴収
- C. 給与所得
- D. 雑所得

答え・解説

Q0045 正答：A. 税額控除

解説：この目的に対応するのは税額控除である。算出した税額から直接差し引く控除という機能・考え方を持つためである。

Q0046

タックスプランニング

タグ：税額控除

用語：税額控除の確認ポイント6：算出した税額から直接差し引く控除

「税額控除」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 他の所得区分に当てはまらない所得
- B. 算出した税額から直接差し引く控除
- C. 勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得
- D. 支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

答え・解説

Q0046 正答：B. 算出した税額から直接差し引く控除

解説：税額控除は算出した税額から直接差し引く控除。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0047

タックスプランニング

タグ：税額控除

用語：税額控除の確認ポイント7：算出した税額から直接差し引く控除

「税額控除」は、支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0047 正答：×

解説：誤り。記述は源泉徴収の説明である。税額控除は算出した税額から直接差し引く控除。

Q0048

タックスプランニング

タグ：税額控除

用語：税額控除の確認ポイント8：算出した税額から直接差し引く控除

次の状況で中心となる論点はどれか。「算出した税額から直接差し引く控除」ことが求められている。

A. 給与所得

B. 雑所得

C. 源泉徴収

D. 税額控除

答え・解説

Q0048 正答：D. 税額控除

解説：中心となる論点は税額控除である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0049

タックスプランニング

タグ：税額控除

用語：税額控除の確認ポイント9：算出した税額から直接差し引く控除

税額控除を選定するときは、「算出した税額から直接差し引く控除」という本来の目的に合うかを確認する。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0049 正答：○

解説：正しい。税額控除の選定・運用では、算出した税額から直接差し引く控除という目的との適合を確認する。

Q0050

タックスプランニング

タグ：税額控除

用語：税額控除の確認ポイント10：算出した税額から直接差し引く控除

税額控除は、算出した税額から直接差し引く控除という説明とは無関係である。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0050 正答：×

解説：誤り。税額控除はまさに算出した税額から直接差し引く控除という意味を持つ。

Q0051

タックスプランニング

タグ：源泉徴収

用語：源泉徴収の確認ポイント1：支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

次の説明に最も合う用語はどれか。支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

- A. 確定申告
- B. 源泉徴収
- C. 事業所得
- D. 譲渡所得

答え・解説

Q0051 正答：B. 源泉徴収

解説：源泉徴収は、支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0052

タックスプランニング

タグ：源泉徴収

用語：源泉徴収の確認ポイント2：支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

源泉徴収の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続
- B. 継続的な事業から生じる所得
- C. 支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み
- D. 資産を譲渡したことによる所得

答え・解説

Q0052 正答：C. 支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

解説：源泉徴収の要点は「支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0053

タックスプランニング

タグ：源泉徴収

用語：源泉徴収の確認ポイント3：支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「源泉徴収」である。

- A. 確定申告：支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み
- B. 事業所得：支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み
- C. 譲渡所得：支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み
- D. 源泉徴収：支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

答え・解説

Q0053 正答：D. 源泉徴収：支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

解説：正しい組合せは「源泉徴収：支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み」。用語だけでなく、何を守り、何进行处理する概念かを確認する。

Q0054

タックスプランニング

タグ：源泉徴収

用語：源泉徴収の確認ポイント4：支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

「源泉徴収」は、支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0054 正答：○

解説：正しい。源泉徴収は支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0055

タックスプランニング

タグ：源泉徴収

用語：源泉徴収の確認ポイント5：支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

組織が「支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 確定申告
- B. 源泉徴収
- C. 事業所得
- D. 譲渡所得

答え・解説

Q0055 正答：B. 源泉徴収

解説：この目的に対応するのは源泉徴収である。支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組みという機能・考え方を持つためである。

Q0056

タックスプランニング

タグ：源泉徴収

用語：源泉徴収の確認ポイント6：支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

「源泉徴収」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 資産を譲渡したことによる所得
- B. 継続的な事業から生じる所得
- C. 支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み
- D. 納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

答え・解説

Q0056 正答：C. 支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

解説：源泉徴収は支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0057

タックスプランニング

タグ：源泉徴収

用語：源泉徴収の確認ポイント7：支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

「源泉徴収」は、納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0057 正答：×

解説：誤り。記述は確定申告の説明である。源泉徴収は支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み。

Q0058

タックスプランニング

タグ：源泉徴収

用語：源泉徴収の確認ポイント8：支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

次の状況で中心となる論点はどれか。「支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み」ことが求められている。

A. 源泉徴収

B. 事業所得

C. 譲渡所得

D. 確定申告

答え・解説

Q0058 正答：A. 源泉徴収

解説：中心となる論点は源泉徴収である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0059

タックスプランニング

タグ：源泉徴収

用語：源泉徴収の確認ポイント9：支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

源泉徴収は名称だけで判断できるため、対象や目的を確認する必要はない。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0059 正答：×

解説：誤り。源泉徴収は支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組みという概念であり、対象・目的・前提条件の確認が必要である。

Q0060

タックスプランニング

タグ：源泉徴収

用語：源泉徴収の確認ポイント10：支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

源泉徴収と他の類似概念を区別する際は、「支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み」という定義を基準にするとよい。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0060 正答：○

解説：正しい。源泉徴収の定義は支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組みであり、類似概念との区別に使える。

Q0061

タックスプランニング

タグ：確定申告

用語：確定申告の確認ポイント1：納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

次の説明に最も合う用語はどれか。納税者が一年間の所得と税額を計算して申告

・精算する手続

- A. 給与所得
- B. 不動産所得
- C. 確定申告
- D. 法人税

答え・解説

Q0061 正答：C. 確定申告

解説：確定申告は、納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0062

タックスプランニング

タグ：確定申告

用語：確定申告の確認ポイント2：納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

確定申告の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得
- B. 土地や建物などの貸付けから生じる所得
- C. 法人の所得に対して課される国税
- D. 納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

答え・解説

Q0062 正答：D. 納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

解説：確定申告の要点は「納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0063

タックスプランニング

タグ：確定申告

用語：確定申告の確認ポイント3：納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「確定申告」である。

- A. 確定申告：納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続
- B. 給与所得：納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続
- C. 不動産所得：納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続
- D. 法人税：納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

答え・解説

Q0063 正答：A. 確定申告：納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

解説：正しい組合せは「確定申告：納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0064

タックスプランニング

タグ：確定申告

用語：確定申告の確認ポイント4：納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

「確定申告」は、納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0064 正答：○

解説：正しい。確定申告は納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0065

タックスプランニング

タグ：確定申告

用語：確定申告の確認ポイント5：納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

組織が「納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 給与所得
- B. 不動産所得
- C. 確定申告
- D. 法人税

答え・解説

Q0065 正答：C. 確定申告

解説：この目的に対応するのは確定申告である。納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続という機能・考え方を持つためである。

Q0066

タックスプランニング

タグ：確定申告

用語：確定申告の確認ポイント6：納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

「確定申告」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 法人の所得に対して課される国税
- B. 土地や建物などの貸付けから生じる所得
- C. 勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得
- D. 納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

答え・解説

Q0066 正答：D. 納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

解説：確定申告は納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0067

タックスプランニング

タグ：確定申告

用語：確定申告の確認ポイント7：納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

「確定申告」は、勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0067 正答：×

解説：誤り。記述は給与所得の説明である。確定申告は納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続。

Q0068

タックスプランニング

タグ：確定申告

用語：確定申告の確認ポイント8：納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

次の状況で中心となる論点はどれか。「納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続」ことが求められている。

A. 不動産所得

B. 確定申告

C. 法人税

D. 給与所得

答え・解説

Q0068 正答：B. 確定申告

解説：中心となる論点は確定申告である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0069

タックスプランニング

タグ：確定申告

用語：確定申告の確認ポイント9：納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

確定申告を選定するときは、「納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続」という本来の目的に合うかを確認する。

- A. ○
B. ×

答え・解説

Q0069 正答：○

解説：正しい。確定申告の選定・運用では、納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続という目的との適合を確認する。

Q0070

タックスプランニング

タグ：確定申告

用語：確定申告の確認ポイント10：納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続

確定申告は、納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続という説明とは無関係である。

- A. ○
B. ×

答え・解説

Q0070 正答：×

解説：誤り。確定申告はまさに納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続という意味を持つ。

Q0071

タックスプランニング

タグ：給与所得

用語：給与所得の確認ポイント1：勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得

次の説明に最も合う用語はどれか。勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得

- A. 事業所得
- B. 一時所得
- C. 消費税
- D. 給与所得

答え・解説

Q0071 正答：D. 給与所得

解説：給与所得は、勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0072

タックスプランニング

タグ：給与所得

用語：給与所得の確認ポイント2：勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得

給与所得の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得
- B. 継続的な事業から生じる所得
- C. 営利目的の継続行為によらない一時的な所得
- D. 財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

答え・解説

Q0072 正答：A. 勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得

解説：給与所得の要点は「勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0073

タックスプランニング

タグ：給与所得

用語：給与所得の確認ポイント3：勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「給与所得」である。

- A. 事業所得：勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得
- B. 給与所得：勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得
- C. 一時所得：勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得
- D. 消費税：勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得

答え・解説

Q0073 正答：B. 給与所得：勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得

解説：正しい組合せは「給与所得：勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0074

タックスプランニング

タグ：給与所得

用語：給与所得の確認ポイント4：勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得

「給与所得」は、勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0074 正答：○

解説：正しい。給与所得は勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0075

タックスプランニング

タグ：給与所得

用語：給与所得の確認ポイント5：勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得

組織が「勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 事業所得
- B. 一時所得
- C. 消費税
- D. 給与所得

答え・解説

Q0075 正答：D. 給与所得

解説：この目的に対応するのは給与所得である。勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得という機能・考え方を持つためである。

Q0076

タックスプランニング

タグ：給与所得

用語：給与所得の確認ポイント6：勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得

「給与所得」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得
- B. 財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税
- C. 営利目的の継続行為によらない一時的な所得
- D. 継続的な事業から生じる所得

答え・解説

Q0076 正答：A. 勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得

解説：給与所得は勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0077

タックスプランニング

タグ：給与所得

用語：給与所得の確認ポイント7：勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得

「給与所得」は、継続的な事業から生じる所得。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0077 正答：×

解説：誤り。記述は事業所得の説明である。給与所得は勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得。

Q0078

タックスプランニング

タグ：給与所得

用語：給与所得の確認ポイント8：勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得

次の状況で中心となる論点はどれか。「勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得」ことが求められている。

- A. 一時所得
- B. 消費税
- C. 給与所得
- D. 事業所得

答え・解説

Q0078 正答：C. 給与所得

解説：中心となる論点は給与所得である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0079

タックスプランニング

タグ：給与所得

用語：給与所得の確認ポイント9：勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得

給与所得は名称だけで判断できるため、対象や目的を確認する必要はない。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0079 正答：×

解説：誤り。給与所得は勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得という概念であり、対象・目的・前提条件の確認が必要である。

Q0080

タックスプランニング

タグ：給与所得

用語：給与所得の確認ポイント10：勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得

給与所得と他の類似概念を区別する際は、「勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得」という定義を基準にするとよい。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0080 正答：○

解説：正しい。給与所得の定義は勤務先から受ける給料や賞与などに係る所得であり、類似概念との区別に使える。

Q0081

タックスプランニング

タグ：事業所得

用語：事業所得の確認ポイント1：継続的な事業から生じる所得

次の説明に最も合う用語はどれか。継続的な事業から生じる所得

- A. 事業所得
- B. 不動産所得
- C. 雑所得
- D. 所得税

答え・解説

Q0081 正答：A. 事業所得

解説：事業所得は、継続的な事業から生じる所得。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0082

タックスプランニング

タグ：事業所得

用語：事業所得の確認ポイント2：継続的な事業から生じる所得

事業所得の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 土地や建物などの貸付けから生じる所得
- B. 継続的な事業から生じる所得
- C. 他の所得区分に当てはまらない所得
- D. 個人の一年間の所得に対して課される国税

答え・解説

Q0082 正答：B. 継続的な事業から生じる所得

解説：事業所得の要点は「継続的な事業から生じる所得」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0083

タックスプランニング

タグ：事業所得

用語：事業所得の確認ポイント3：継続的な事業から生じる所得

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「事業所得」である。

- A. 不動産所得：継続的な事業から生じる所得
- B. 雑所得：継続的な事業から生じる所得
- C. 事業所得：継続的な事業から生じる所得
- D. 所得税：継続的な事業から生じる所得

答え・解説

Q0083 正答：C. 事業所得：継続的な事業から生じる所得

解説：正しい組合せは「事業所得：継続的な事業から生じる所得」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0084

タックスプランニング

タグ：事業所得

用語：事業所得の確認ポイント4：継続的な事業から生じる所得

「事業所得」は、継続的な事業から生じる所得。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0084 正答：○

解説：正しい。事業所得は継続的な事業から生じる所得。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0085

タックスプランニング

タグ：事業所得

用語：事業所得の確認ポイント5：継続的な事業から生じる所得

組織が「継続的な事業から生じる所得」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 事業所得
- B. 不動産所得
- C. 雑所得
- D. 所得税

答え・解説

Q0085 正答：A. 事業所得

解説：この目的に対応するのは事業所得である。継続的な事業から生じる所得という機能・考え方を持つためである。

Q0086

タックスプランニング

タグ：事業所得

用語：事業所得の確認ポイント6：継続的な事業から生じる所得

「事業所得」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 個人の一年間の所得に対して課される国税
- B. 継続的な事業から生じる所得
- C. 他の所得区分に当てはまらない所得
- D. 土地や建物などの貸付けから生じる所得

答え・解説

Q0086 正答：B. 継続的な事業から生じる所得

解説：事業所得は継続的な事業から生じる所得。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0087

タックスプランニング

タグ：事業所得

用語：事業所得の確認ポイント7：継続的な事業から生じる所得

「事業所得」は、土地や建物などの貸付けから生じる所得。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0087 正答：×

解説：誤り。記述は不動産所得の説明である。事業所得は継続的な事業から生じる所得。

Q0088

タックスプランニング

タグ：事業所得

用語：事業所得の確認ポイント8：継続的な事業から生じる所得

次の状況で中心となる論点はどれか。「継続的な事業から生じる所得」ことが求められている。

- A. 雑所得
- B. 所得税
- C. 不動産所得
- D. 事業所得

答え・解説

Q0088 正答：D. 事業所得

解説：中心となる論点は事業所得である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0089

タックスプランニング

タグ：事業所得

用語：事業所得の確認ポイント9：継続的な事業から生じる所得

事業所得を選定するときは、「継続的な事業から生じる所得」という本来の目的に合うかを確認する。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0089 正答：○

解説：正しい。事業所得の選定・運用では、継続的な事業から生じる所得という目的との適合を確認する。

Q0090

タックスプランニング

タグ：事業所得

用語：事業所得の確認ポイント10：継続的な事業から生じる所得

事業所得は、継続的な事業から生じる所得という説明とは無関係である。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0090 正答：×

解説：誤り。事業所得はまさに継続的な事業から生じる所得という意味を持つ。

Q0091

タックスプランニング

タグ：不動産所得

用語：不動産所得の確認ポイント1：土地や建物などの貸付けから生じる所得

次の説明に最も合う用語はどれか。土地や建物などの貸付けから生じる所得

- A. 一時所得
- B. 不動産所得
- C. 譲渡所得
- D. 総合課税

答え・解説

Q0091 正答：B. 不動産所得

解説：不動産所得は、土地や建物などの貸付けから生じる所得。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0092

タックスプランニング

タグ：不動産所得

用語：不動産所得の確認ポイント2：土地や建物などの貸付けから生じる所得

不動産所得の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 営利目的の継続行為によらない一時的な所得
- B. 資産を譲渡したことによる所得
- C. 土地や建物などの貸付けから生じる所得
- D. 対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式

答え・解説

Q0092 正答：C. 土地や建物などの貸付けから生じる所得

解説：不動産所得の要点は「土地や建物などの貸付けから生じる所得」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0093

タックスプランニング

タグ：不動産所得

用語：不動産所得の確認ポイント3：土地や建物などの貸付けから生じる所得

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「不動産所得」である。

- A. 一時所得：土地や建物などの貸付けから生じる所得
- B. 譲渡所得：土地や建物などの貸付けから生じる所得
- C. 総合課税：土地や建物などの貸付けから生じる所得
- D. 不動産所得：土地や建物などの貸付けから生じる所得

答え・解説

Q0093 正答：D. 不動産所得：土地や建物などの貸付けから生じる所得

解説：正しい組合せは「不動産所得：土地や建物などの貸付けから生じる所得」。用語だけでなく、何を守り、何进行处理する概念かを確認する。

Q0094

タックスプランニング

タグ：不動産所得

用語：不動産所得の確認ポイント4：土地や建物などの貸付けから生じる所得

「不動産所得」は、土地や建物などの貸付けから生じる所得。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0094 正答：○

解説：正しい。不動産所得は土地や建物などの貸付けから生じる所得。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0095

タックスプランニング

タグ：不動産所得

用語：不動産所得の確認ポイント5：土地や建物などの貸付けから生じる所得

組織が「土地や建物などの貸付けから生じる所得」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 一時所得
- B. 不動産所得
- C. 譲渡所得
- D. 総合課税

答え・解説

Q0095 正答：B. 不動産所得

解説：この目的に対応するのは不動産所得である。土地や建物などの貸付けから生じる所得という機能・考え方を持つためである。

Q0096

タックスプランニング

タグ：不動産所得

用語：不動産所得の確認ポイント6：土地や建物などの貸付けから生じる所得

「不動産所得」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式
- B. 資産を譲渡したことによる所得
- C. 土地や建物などの貸付けから生じる所得
- D. 営利目的の継続行為によらない一時的な所得

答え・解説

Q0096 正答：C. 土地や建物などの貸付けから生じる所得

解説：不動産所得は土地や建物などの貸付けから生じる所得。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0097

タックスプランニング

タグ：不動産所得

用語：不動産所得の確認ポイント7：土地や建物などの貸付けから生じる所得

「不動産所得」は、営利目的の継続行為によらない一時的な所得。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0097 正答：×

解説：誤り。記述は一時所得の説明である。不動産所得は土地や建物などの貸付けから生じる所得。

Q0098

タックスプランニング

タグ：不動産所得

用語：不動産所得の確認ポイント8：土地や建物などの貸付けから生じる所得

次の状況で中心となる論点はどれか。「土地や建物などの貸付けから生じる所得」ことが求められている。

A. 不動産所得

B. 譲渡所得

C. 総合課税

D. 一時所得

答え・解説

Q0098 正答：A. 不動産所得

解説：中心となる論点は不動産所得である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0099

タックスプランニング

タグ：不動産所得

用語：不動産所得の確認ポイント9：土地や建物などの貸付けから生じる所得

不動産所得は名称だけで判断できるため、対象や目的を確認する必要はない。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0099 正答：×

解説：誤り。不動産所得は土地や建物などの貸付けから生じる所得という概念であり、対象・目的・前提条件の確認が必要である。

Q0100

タックスプランニング

タグ：不動産所得

用語：不動産所得の確認ポイント10：土地や建物などの貸付けから生じる所得

不動産所得と他の類似概念を区別する際は、「土地や建物などの貸付けから生じる所得」という定義を基準にするとよい。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0100 正答：○

解説：正しい。不動産所得の定義は土地や建物などの貸付けから生じる所得であり、類似概念との区別に使える。

Q0101

タックスプランニング

タグ：一時所得

用語：一時所得の確認ポイント1：営利目的の継続行為によらない一時的な所得

次の説明に最も合う用語はどれか。営利目的の継続行為によらない一時的な所得

- A. 雑所得
- B. 法人税
- C. 一時所得
- D. 申告分離課税

答え・解説

Q0101 正答：C. 一時所得

解説：一時所得は、営利目的の継続行為によらない一時的な所得。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0102

タックスプランニング

タグ：一時所得

用語：一時所得の確認ポイント2：営利目的の継続行為によらない一時的な所得

一時所得の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 他の所得区分に当てはまらない所得
- B. 法人の所得に対して課される国税
- C. 他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式
- D. 営利目的の継続行為によらない一時的な所得

答え・解説

Q0102 正答：D. 営利目的の継続行為によらない一時的な所得

解説：一時所得の要点は「営利目的の継続行為によらない一時的な所得」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0103

タックスプランニング

タグ：一時所得

用語：一時所得の確認ポイント3：営利目的の継続行為によらない一時的な所得

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「一時所得」である。

- A. 一時所得：営利目的の継続行為によらない一時的な所得
- B. 雑所得：営利目的の継続行為によらない一時的な所得
- C. 法人税：営利目的の継続行為によらない一時的な所得
- D. 申告分離課税：営利目的の継続行為によらない一時的な所得

答え・解説

Q0103 正答：A. 一時所得：営利目的の継続行為によらない一時的な所得

解説：正しい組合せは「一時所得：営利目的の継続行為によらない一時的な所得」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0104

タックスプランニング

タグ：一時所得

用語：一時所得の確認ポイント4：営利目的の継続行為によらない一時的な所得

「一時所得」は、営利目的の継続行為によらない一時的な所得。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0104 正答：○

解説：正しい。一時所得は営利目的の継続行為によらない一時的な所得。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0105

タックスプランニング

タグ：一時所得

用語：一時所得の確認ポイント5：営利目的の継続行為によらない一時的な所得

組織が「営利目的の継続行為によらない一時的な所得」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 雑所得
- B. 法人税
- C. 一時所得
- D. 申告分離課税

答え・解説

Q0105 正答：C. 一時所得

解説：この目的に対応するのは一時所得である。営利目的の継続行為によらない一時的な所得という機能・考え方を持つためである。

Q0106

タックスプランニング

タグ：一時所得

用語：一時所得の確認ポイント6：営利目的の継続行為によらない一時的な所得

「一時所得」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式
- B. 法人の所得に対して課される国税
- C. 他の所得区分に当てはまらない所得
- D. 営利目的の継続行為によらない一時的な所得

答え・解説

Q0106 正答：D. 営利目的の継続行為によらない一時的な所得

解説：一時所得は営利目的の継続行為によらない一時的な所得。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0107

タックスプランニング

タグ：一時所得

用語：一時所得の確認ポイント7：営利目的の継続行為によらない一時的な所得

「一時所得」は、他の所得区分に当てはまらない所得。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0107 正答：×

解説：誤り。記述は雑所得の説明である。一時所得は営利目的の継続行為によらない一時的な所得。

Q0108

タックスプランニング

タグ：一時所得

用語：一時所得の確認ポイント8：営利目的の継続行為によらない一時的な所得

次の状況で中心となる論点はどれか。「営利目的の継続行為によらない一時的な所得」ことが求められている。

A. 法人税

B. 一時所得

C. 申告分離課税

D. 雑所得

答え・解説

Q0108 正答：B. 一時所得

解説：中心となる論点は一時所得である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0109

タックスプランニング

タグ：一時所得

用語：一時所得の確認ポイント9：営利目的の継続行為によらない一時的な所得

一時所得を選定するときは、「営利目的の継続行為によらない一時的な所得」という本来の目的に合うかを確認する。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0109 正答：○

解説：正しい。一時所得の選定・運用では、営利目的の継続行為によらない一時的な所得という目的との適合を確認する。

Q0110

タックスプランニング

タグ：一時所得

用語：一時所得の確認ポイント10：営利目的の継続行為によらない一時的な所得

一時所得は、営利目的の継続行為によらない一時的な所得という説明とは無関係である。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0110 正答：×

解説：誤り。一時所得はまさに営利目的の継続行為によらない一時的な所得という意味を持つ。

Q0111

タックスプランニング

タグ：雑所得

用語：雑所得の確認ポイント1：他の所得区分に当てはまらない所得

次の説明に最も合う用語はどれか。他の所得区分に当てはまらない所得

- A. 譲渡所得
- B. 消費税
- C. 所得控除
- D. 雑所得

答え・解説

Q0111 正答：D. 雑所得

解説：雑所得は、他の所得区分に当てはまらない所得。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0112

タックスプランニング

タグ：雑所得

用語：雑所得の確認ポイント2：他の所得区分に当てはまらない所得

雑所得の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 他の所得区分に当てはまらない所得
- B. 資産を譲渡したことによる所得
- C. 財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税
- D. 課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除

答え・解説

Q0112 正答：A. 他の所得区分に当てはまらない所得

解説：雑所得の要点は「他の所得区分に当てはまらない所得」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0113

タックスプランニング

タグ：雑所得

用語：雑所得の確認ポイント3：他の所得区分に当てはまらない所得

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「雑所得」である。

- A. 譲渡所得：他の所得区分に当てはまらない所得
- B. 雑所得：他の所得区分に当てはまらない所得
- C. 消費税：他の所得区分に当てはまらない所得
- D. 所得控除：他の所得区分に当てはまらない所得

答え・解説

Q0113 正答：B. 雑所得：他の所得区分に当てはまらない所得

解説：正しい組合せは「雑所得：他の所得区分に当てはまらない所得」。用語だけでなく、何を守り、何进行处理する概念かを確認する。

Q0114

タックスプランニング

タグ：雑所得

用語：雑所得の確認ポイント4：他の所得区分に当てはまらない所得

「雑所得」は、他の所得区分に当てはまらない所得。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0114 正答：○

解説：正しい。雑所得は他の所得区分に当てはまらない所得。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0115

タックスプランニング

タグ：雑所得

用語：雑所得の確認ポイント5：他の所得区分に当てはまらない所得

組織が「他の所得区分に当てはまらない所得」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 譲渡所得
- B. 消費税
- C. 所得控除
- D. 雑所得

答え・解説

Q0115 正答：D. 雑所得

解説：この目的に対応するのは雑所得である。他の所得区分に当てはまらない所得という機能・考え方を持つためである。

Q0116

タックスプランニング

タグ：雑所得

用語：雑所得の確認ポイント6：他の所得区分に当てはまらない所得

「雑所得」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 他の所得区分に当てはまらない所得
- B. 課税所得を求める際に所得金額から差し引く控除
- C. 財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税
- D. 資産を譲渡したことによる所得

答え・解説

Q0116 正答：A. 他の所得区分に当てはまらない所得

解説：雑所得は他の所得区分に当てはまらない所得。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0117

タックスプランニング

タグ：雑所得

用語：雑所得の確認ポイント7：他の所得区分に当てはまらない所得

「雑所得」は、資産を譲渡したことによる所得。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0117 正答：×

解説：誤り。記述は譲渡所得の説明である。雑所得は他の所得区分に当てはまらない所得。

Q0118

タックスプランニング

タグ：雑所得

用語：雑所得の確認ポイント8：他の所得区分に当てはまらない所得

次の状況で中心となる論点はどれか。「他の所得区分に当てはまらない所得」ことが求められている。

A. 消費税

B. 所得控除

C. 雑所得

D. 譲渡所得

答え・解説

Q0118 正答：C. 雑所得

解説：中心となる論点は雑所得である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0119

タックスプランニング

タグ：雑所得

用語：雑所得の確認ポイント9：他の所得区分に当てはまらない所得

雑所得は名称だけで判断できるため、対象や目的を確認する必要はない。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0119 正答：×

解説：誤り。雑所得は他の所得区分に当てはまらない所得という概念であり、対象・目的・前提条件の確認が必要である。

Q0120

タックスプランニング

タグ：雑所得

用語：雑所得の確認ポイント10：他の所得区分に当てはまらない所得

雑所得と他の類似概念を区別する際は、「他の所得区分に当てはまらない所得」という定義を基準にするとよい。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0120 正答：○

解説：正しい。雑所得の定義は他の所得区分に当てはまらない所得であり、類似概念との区別に使える。

Q0121

タックスプランニング

タグ：譲渡所得

用語：譲渡所得の確認ポイント1：資産を譲渡したことによる所得

次の説明に最も合う用語はどれか。資産を譲渡したことによる所得

- A. 譲渡所得
- B. 法人税
- C. 所得税
- D. 税額控除

答え・解説

Q0121 正答：A. 譲渡所得

解説：譲渡所得は、資産を譲渡したことによる所得。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0122

タックスプランニング

タグ：譲渡所得

用語：譲渡所得の確認ポイント2：資産を譲渡したことによる所得

譲渡所得の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 法人の所得に対して課される国税
- B. 資産を譲渡したことによる所得
- C. 個人の一年間の所得に対して課される国税
- D. 算出した税額から直接差し引く控除

答え・解説

Q0122 正答：B. 資産を譲渡したことによる所得

解説：譲渡所得の要点は「資産を譲渡したことによる所得」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0123

タックスプランニング

タグ：譲渡所得

用語：譲渡所得の確認ポイント3：資産を譲渡したことによる所得

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「譲渡所得」である。

- A. 法人税：資産を譲渡したことによる所得
- B. 所得税：資産を譲渡したことによる所得
- C. 譲渡所得：資産を譲渡したことによる所得
- D. 税額控除：資産を譲渡したことによる所得

答え・解説

Q0123 正答：C. 譲渡所得：資産を譲渡したことによる所得

解説：正しい組合せは「譲渡所得：資産を譲渡したことによる所得」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0124

タックスプランニング

タグ：譲渡所得

用語：譲渡所得の確認ポイント4：資産を譲渡したことによる所得

「譲渡所得」は、資産を譲渡したことによる所得。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0124 正答：○

解説：正しい。譲渡所得は資産を譲渡したことによる所得。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0125

タックスプランニング

タグ：譲渡所得

用語：譲渡所得の確認ポイント5：資産を譲渡したことによる所得

組織が「資産を譲渡したことによる所得」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 譲渡所得
- B. 法人税
- C. 所得税
- D. 税額控除

答え・解説

Q0125 正答：A. 譲渡所得

解説：この目的に対応するのは譲渡所得である。資産を譲渡したことによる所得という機能・考え方を持つためである。

Q0126

タックスプランニング

タグ：譲渡所得

用語：譲渡所得の確認ポイント6：資産を譲渡したことによる所得

「譲渡所得」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 算出した税額から直接差し引く控除
- B. 資産を譲渡したことによる所得
- C. 個人の一年間の所得に対して課される国税
- D. 法人の所得に対して課される国税

答え・解説

Q0126 正答：B. 資産を譲渡したことによる所得

解説：譲渡所得は資産を譲渡したことによる所得。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0127

タックスプランニング

タグ：譲渡所得

用語：譲渡所得の確認ポイント7：資産を譲渡したことによる所得

「譲渡所得」は、法人の所得に対して課される国税。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0127 正答：×

解説：誤り。記述は法人税の説明である。譲渡所得は資産を譲渡したことによる所得。

Q0128

タックスプランニング

タグ：譲渡所得

用語：譲渡所得の確認ポイント8：資産を譲渡したことによる所得

次の状況で中心となる論点はどれか。「資産を譲渡したことによる所得」ことが求められている。

- A. 所得税
- B. 税額控除
- C. 法人税
- D. 譲渡所得

答え・解説

Q0128 正答：D. 譲渡所得

解説：中心となる論点は譲渡所得である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0129

タックスプランニング

タグ：譲渡所得

用語：譲渡所得の確認ポイント9：資産を譲渡したことによる所得

譲渡所得を選定するときは、「資産を譲渡したことによる所得」という本来の目的に合うかを確認する。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0129 正答：○

解説：正しい。譲渡所得の選定・運用では、資産を譲渡したことによる所得という目的との適合を確認する。

Q0130

タックスプランニング

タグ：譲渡所得

用語：譲渡所得の確認ポイント10：資産を譲渡したことによる所得

譲渡所得は、資産を譲渡したことによる所得という説明とは無関係である。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0130 正答：×

解説：誤り。譲渡所得はまさに資産を譲渡したことによる所得という意味を持つ。

Q0131

タックスプランニング

タグ：法人税

用語：法人税の確認ポイント1：法人の所得に対して課される国税

次の説明に最も合う用語はどれか。法人の所得に対して課される国税

- A. 消費税
- B. 法人税
- C. 総合課税
- D. 源泉徴収

答え・解説

Q0131 正答：B. 法人税

解説：法人税は、法人の所得に対して課される国税。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0132

タックスプランニング

タグ：法人税

用語：法人税の確認ポイント2：法人の所得に対して課される国税

法人税の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税
- B. 対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式
- C. 法人の所得に対して課される国税
- D. 支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み

答え・解説

Q0132 正答：C. 法人の所得に対して課される国税

解説：法人税の要点は「法人の所得に対して課される国税」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0133

タックスプランニング

タグ：法人税

用語：法人税の確認ポイント3：法人の所得に対して課される国税

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「法人税」である。

- A. 消費税：法人の所得に対して課される国税
- B. 総合課税：法人の所得に対して課される国税
- C. 源泉徴収：法人の所得に対して課される国税
- D. 法人税：法人の所得に対して課される国税

答え・解説

Q0133 正答：D. 法人税：法人の所得に対して課される国税

解説：正しい組合せは「法人税：法人の所得に対して課される国税」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0134

タックスプランニング

タグ：法人税

用語：法人税の確認ポイント4：法人の所得に対して課される国税

「法人税」は、法人の所得に対して課される国税。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0134 正答：○

解説：正しい。法人税は法人の所得に対して課される国税。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0135

タックスプランニング

タグ：法人税

用語：法人税の確認ポイント5：法人の所得に対して課される国税

組織が「法人の所得に対して課される国税」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 消費税
- B. 法人税
- C. 総合課税
- D. 源泉徴収

答え・解説

Q0135 正答：B. 法人税

解説：この目的に対応するのは法人税である。法人の所得に対して課される国税という機能・考え方を持つためである。

Q0136

タックスプランニング

タグ：法人税

用語：法人税の確認ポイント6：法人の所得に対して課される国税

「法人税」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 支払者が支払時に税額を差し引き国へ納付する仕組み
- B. 対象所得を合算して超過累進税率などを適用する課税方式
- C. 法人の所得に対して課される国税
- D. 財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

答え・解説

Q0136 正答：C. 法人の所得に対して課される国税

解説：法人税は法人の所得に対して課される国税。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0137

タックスプランニング

タグ：法人税

用語：法人税の確認ポイント7：法人の所得に対して課される国税

「法人税」は、財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0137 正答：×

解説：誤り。記述は消費税の説明である。法人税は法人の所得に対して課される国税。

Q0138

タックスプランニング

タグ：法人税

用語：法人税の確認ポイント8：法人の所得に対して課される国税

次の状況で中心となる論点はどれか。「法人の所得に対して課される国税」ことが求められている。

A. 法人税

B. 総合課税

C. 源泉徴収

D. 消費税

答え・解説

Q0138 正答：A. 法人税

解説：中心となる論点は法人税である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0139

タックスプランニング

タグ：法人税

用語：法人税の確認ポイント9：法人の所得に対して課される国税

法人税は名称だけで判断できるため、対象や目的を確認する必要はない。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0139 正答：×

解説：誤り。法人税は法人の所得に対して課される国税という概念であり、対象・目的・前提条件の確認が必要である。

Q0140

タックスプランニング

タグ：法人税

用語：法人税の確認ポイント10：法人の所得に対して課される国税

法人税と他の類似概念を区別する際は、「法人の所得に対して課される国税」という定義を基準にするとよい。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0140 正答：○

解説：正しい。法人税の定義は法人の所得に対して課される国税であり、類似概念との区別に使える。

Q0141

タックスプランニング

タグ：消費税

用語：消費税の確認ポイント1：財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

次の説明に最も合う用語はどれか。財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

- A. 所得税
- B. 申告分離課税
- C. 消費税
- D. 確定申告

答え・解説

Q0141 正答：C. 消費税

解説：消費税は、財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0142

タックスプランニング

タグ：消費税

用語：消費税の確認ポイント2：財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

消費税の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 個人の一年間の所得に対して課される国税
- B. 他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式
- C. 納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続
- D. 財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

答え・解説

Q0142 正答：D. 財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

解説：消費税の要点は「財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0143

タックスプランニング

タグ：消費税

用語：消費税の確認ポイント3：財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「消費税」である。

- A. 消費税：財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税
- B. 所得税：財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税
- C. 申告分離課税：財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税
- D. 確定申告：財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

答え・解説

Q0143 正答：A. 消費税：財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

解説：正しい組合せは「消費税：財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税」。
用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0144

タックスプランニング

タグ：消費税

用語：消費税の確認ポイント4：財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

「消費税」は、財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0144 正答：○

解説：正しい。消費税は財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0145

タックスプランニング

タグ：消費税

用語：消費税の確認ポイント5：財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

組織が「財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 所得税
- B. 申告分離課税
- C. 消費税
- D. 確定申告

答え・解説

Q0145 正答：C. 消費税

解説：この目的に対応するのは消費税である。財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税という機能・考え方を持つためである。

Q0146

タックスプランニング

タグ：消費税

用語：消費税の確認ポイント6：財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

「消費税」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 納税者が一年間の所得と税額を計算して申告・精算する手続
- B. 他の所得と分けて税額を計算し確定申告する方式
- C. 個人の一年間の所得に対して課される国税
- D. 財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

答え・解説

Q0146 正答：D. 財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

解説：消費税は財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0147

タックスプランニング

タグ：消費税

用語：消費税の確認ポイント7：財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

「消費税」は、個人の一年間の所得に対して課される国税。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0147 正答：×

解説：誤り。記述は所得税の説明である。消費税は財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税。

Q0148

タックスプランニング

タグ：消費税

用語：消費税の確認ポイント8：財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

次の状況で中心となる論点はどれか。「財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税」ことが求められている。

A. 申告分離課税

B. 消費税

C. 確定申告

D. 所得税

答え・解説

Q0148 正答：B. 消費税

解説：中心となる論点は消費税である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0149

タックスプランニング

タグ：消費税

用語：消費税の確認ポイント9：財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

消費税を選定するときは、「財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税」という本来の目的に合うかを確認する。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0149 正答：○

解説：正しい。消費税の選定・運用では、財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税という目的との適合を確認する。

Q0150

タックスプランニング

タグ：消費税

用語：消費税の確認ポイント10：財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税

消費税は、財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税という説明とは無関係である。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0150 正答：×

解説：誤り。消費税はまさに財貨・サービスの消費に広く負担を求める間接税という意味を持つ。